研究対象者の方への説明文書

セクシュアルマイノリティに対する多様性寛容向上をねらいとした心理社会的手法開発研究

0.はじめに

この文書は、LGBTQ（Lesbian（レズビアン＝女性同性愛者）、Gay（ゲイ＝男性同性愛者）、Bisexual（バイセクシャル＝両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー＝心と体の性が異なる人）、Queer／Questioning（クィアまたはクエスチョニング＝性的指向・性自認が定まらない人）の当事者・非当事者の方々の実態調査について詳しい説明を示したものです。本研究への参加に同意されるかどうかは、あなたの自由意志で決定してください。たとえ研究への参加をお断りになられても、不利益を被ることはありません。

本研究に参加した後、研究への参加をやめたいと思われる時は、いつでもやめることができます。その場合も、あなたがその後に不利益を受けることは一切ありません。担当者の説明やこの説明文書について、わからないことやご心配なことがありましたら、遠慮なくお尋ねください。（本文書、末尾のところまでお問い合わせをお願い致します）

なお本研究は、立命館大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会の承認を受け、立命館大学長の許可を得て実施します。共同研究機関も、立命館大学での研究実施承認が出た後に、各機関で一括審査に基づく手続きを経て、研究実施許可を得て研究を実施します。

1.研究実施体制

研究責任者

立命館大学スポーツ健康科学部 教授 清家 理

共同研究者

立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科大学院生（博士後期課程３年） 川瀬 広大

立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科大学院生（博士前期課程１年） 小林 夢芽華

立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科大学院生（博士前期課程１年） 東海林 秀也

立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科大学院生（博士前期課程１年） 水野 凛

立命館大学総合科学技術研究機構 客員研究員 山陰 一

立命館大学 OIC 総合研究機構　補助研究員　岡村謙一

LGBT 総合研究所 代表取締役 森永貴彦

（2024 年 10 月１日より　立命館大学総合科学技術研究機構　客員准教授着任）

京都大学経営管理研究部・教育部　特定准教授　蓮行

京都大学経営管理研究部・教育部　特定助教　末長英里子

京都大学経営管理研究部　教務補佐員　大山渓花

京都大学経営管理研究部　教務補佐員　柴田惇朗

その他、（株）マクロミル、立命館大学スポーツ健康科学部、総合心理学部、情報理工学部、経営学部に所属する教員、大学院生、学部生の協力を得て実施します。

2.研究の意義と目的について

昨今、ダイバーシティー ＆ インクルージョン（多様性寛容と包摂性）の重要性が提唱され、様々な実践が進んでいます。多様性寛容には、表層的なもの、深層的なものがあり、前者は、障害、国籍、年齢による違いを理解しあうもの、後者は、価値観、信念、アイデンティティにおる違いを理解しあうものを示します。特に、後者は、認識がされにくいこと、異なる価値観や信念を有する人とのコミュニケーションの難しさから理解が進まない弊害があります。その筆頭が、LGBTQ に対する多様性寛容、つまり、性的指向やジェンダーアイデンティティを含むセクシュアリティに対する多様性寛容です。

そこで本研究では、セクシュアリティの多様性に対する社会的寛容性を高めるために、対象者に対して心理社会的にどのような働きかけをすると良いのか、教育や啓発手法の開発を目指しています。この最終目標に到達するために、本研究では、以下の２点を目的としています。

1. LGBTQ 当事者および非当事者の心理社会的側面をさらに深く理解し、セクシュアリティに関連する差別や偏見の解消を目指す具体的な介入戦略を打ち出すこと。
2. 本研究の対象者に対する定点観測を通じ、心理社会的側面の経年変化を把握すること。

日本社会において、LGBTQ 当事者への差別や偏見が依然として根強く存在し、これが個々人の精神的健康や社会的包摂に悪影響を与えています。また、LGBTQ に関する正確な知識が不足しており、誤解や無知が差別や偏見を助長しています。これらの課題を解決するためには、LGBTQ 当事者と非当事者の双方に焦点を当てた包括的なアプローチが必要だと考えられます。
従前より、誤解、無知、無意識の偏見を解消する手立てとして啓発的活動や教育が実施されてきましたが、ソーシャルネットワークサービス（SNS）の発展により、啓発的活動や教育よりも速いスピードで、マイノリティに対する誤解や無知、無意識の偏見によるネガティブな情報が拡散されています。情報リテラシーや教育による正しい知識が無い限り、その情報の信ぴょう性を確認することなく鵜呑みにしてしまい、LGBTQ 当事者に対する根強い差別や偏見へと変貌してしまう悪循環が生じています。

また、LGBTQ 当事者に対する考え、差別や偏見の根底にある『背景』を知らないままでは、画一的な啓発や教育では受け手に全く響かず、啓発や教育の形骸化が懸念されます。先に実施された研究では、LGBTQ 当事者のみ、非当事者のみなど、片方に対する意識や行動変容に着目した研究が多々実施されてきました。特に、近年の非当事者のみに対する意識や行動変容に着目した研究は、非当事者のアンコンシャスバイアス（無意識の偏ったものの見方や考え方）の解消を目的としています。しかし、非当事者だけに変化を求めることに不均衡が生じ、結局、効果が持続しない結果となっています。

そこで、本研究では、LGBTQ 当事者と非当事者の双方を対象に調査を実施し、包括的な視点[注]から心理的・社会的課題とニーズを明らかにすることで、従来の研究の限界を克服することを目指します。そして、判明したニーズを基にした啓発・教育プログラムの試作を実施し、効果検証を経て、多様性寛容向上のための教育・啓発手法を開発します。

[注]：包括的な視点

①属性項目：職業、同居形態、最終学歴、年齢、婚姻状況
②意識行動項目（ペルソナ把握目的）：購買意識、衣食住意識、健康・理美容意識、仕事意識、対人意識
③クラスタリング因子項目（クラスタリング目的）：社会参加意識、自尊感情（顕在的・潜在的）、感情的調整と自己肯定感、社会的望ましさ、幸福感
④性のあり方に関する項目
≪共通設問≫
・性的マイノリティ関連用語の名称認知・内容理解度
・（当事者）性のあり方自覚年齢
・LGBTQ 存在認知率
・LGBTQ に対する偏見保有実態
・差別的言動に対する意識差把握
・現状の対応施策の普及状況と施策別希望度
・LGBT 啓発対応企業に対する選択意向度合
≪LGBTQ 当事者対象≫
・性的指向性、ジェンダーアイデンティティごとのカミングアウト率
・性的指向性、ジェンダーアイデンティティごとのカミングアウト後の反応実態
・性的指向性、ジェンダーアイデンティティごとのカミングアウト意向
・自己の性のあり方に対する現状意識（自己認識状況、困難経験率、希死念慮実態、カミングアウトに対する意識・対応希望範囲・望む制度等）
・直面している困難の内容と程度
≪非当事者対象≫
・LGBTQ 受容度
・LGBTQ 受容のきっかけ有無
・LGBTQ 受容度への影響項目
・多様な性のあり方に対する現状意識：理解度、支持意向、差別的言動意識の有無や程度

3.研究の方法について

・研究にご協力いただける方には、インターネットにてアンケートにご回答いただきます。
・アンケート調査の内容は、以下のとおりです。

①属性項目：職業、同居形態、最終学歴、年齢、婚姻状況
②意識行動項目（ペルソナ把握目的）：購買意識、衣食住意識、健康・理美容意識、仕事意識、対人意識
③クラスタリング因子項目（クラスタリング目的）：社会参加意識、自尊感情（顕在的・潜在的）、感情的調整と自己肯定感、社会的望ましさ、幸福感
④性のあり方に関する項目
≪共通設問≫
・性的マイノリティ関連用語の名称認知・内容理解度
・（当事者）性のあり方自覚年齢
・LGBTQ 存在認知率
・LGBTQ に対する偏見保有実態
・差別的言動に対する意識差把握
・現状の対応施策の普及状況と施策別希望度
・LGBT 啓発対応企業に対する選択意向度合
≪LGBTQ 当事者対象≫
・性的指向性、ジェンダーアイデンティティごとのカミングアウト率
・性的指向性、ジェンダーアイデンティティごとのカミングアウト後の反応実態
・性的指向性、ジェンダーアイデンティティごとのカミングアウト意向

・自己の性のあり方に対する現状意識（自己認識状況、困難経験率、希死念慮実態、カミングアウトに対する意識・対応希望範囲・望む制度等）
・直面している困難の内容と程度
≪非当事者対象≫
・LGBTQ 受容度
・LGBTQ 受容のきっかけ有無
・LGBTQ 受容度への影響項目
・多様な性のあり方に対する現状意識：理解度、支持意向、差別的言動意識の有無や程度

・以上の項目につき、研究終了時までの間、年に１回調査を実施致します。

（研究終了時《2027 年３月》までの間、年に１回実施のため、御参加いただける場合は、研究終了時までに最大３回、調査に参加していただくことになります。２回目、３回目の調査実施タイミングは、１回目の調査開始時期に合わせて決定致します。

4.この研究の研究実施期間

2024 年 10 月７日 ～ 2027 年３月 31 日

5.この研究に対象者として選ばれた理由

研究機関の長の許可日以降、ネット調査会社（（株）マクロミル）の協力を得て、アンケート調査を実施致します。（株）マクロミルが有するパネルモニタから研究参加者を募り、参加を希望された方のうち、以下の条件を満たす方を対象とします。

【対象基準】

研究参加に同意いただける方のうち、日本在住（国籍不問）の 18 歳以上１００歳までの方で
下記のいずれかに該当する方

①LGBTQ 当事者

性的指向性、ジェンダーアイデンティティのスクリーニングで、性的指向性では異性愛以外に該当する方、ジェンダーアイデンティティでは、シスジェダー以外に該当する方であり、18 歳以上から 100 歳まで最大 2000 名

②LGBTQ 非当事者

性的指向性、ジェンダーアイデンティティのスクリーニングで、性的指向性では異性愛に該当する方、ジェンダーアイデンティティでは、シスジェダーに該当する方であり、18 歳以上から 100 歳まで最大 2000 名

【参加できない方】

・ご自身で日本語のアンケートに回答することが難しい方

6.研究に参加することで期待される利益

本研究への参加により、LGBTQ 当事者・非当事者の実態が明らかになり、自身・他者に寛容な社会の構築に貢献することができます。

7.研究に参加することで起こりうる危険並びに不利益

アンケートへの回答にかかる時間的負担および回答作業に伴う心理的負担を感じられる可能性がありますが、重篤な有害事象（健康被害）が生じる可能性は極めて低いと考えられます。その理由を以下に示します。

本研究では、LGBTQ 当事者の生活実態や現在の思いや考えを尋ねる設問が中心であり、トラウマの想起やパニック障害などの心理的混乱を招くような質問は含まれていません。このため、皆さまが設問に回答することによる心理的混乱という意味での心理的負担感は最小限であると判断しています。どうしてもご心配な方や不安な方は、調査への参加を見合わせていただいても全く問題ございません。

【全研究参加者】

・約 30 から 40 分程度のアンケート調査

8.謝礼の支払について

本研究では、皆さまがモニタ登録されている機関（株）マクロミルの協力を得て調査を実施するため、謝礼は、調査 1 回ごとに（株）マクロミルのモニタ規約に基づき、謝礼が提供（ポイント付与）されます。アンケート調査への回答完了後（送信ボタンを押した後）、即時でマクロミルモニタＭｙページにポイントが付与されます。

※アンケート調査 1 回ごとに謝礼提供（ポイント付与）となります。

今回アンケート調査は、2～82 ポイントとなります。

【参考】（株）マクロミル　ポイント規程　https://monitor.macromill.com/points_exchange.html

9.研究に関する情報開示について

本研究の内容をもっと詳しく知りたい場合には、他の研究対象者の個人情報保護および当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画書を入手または閲覧できます。なお、本研究により明らかになった結果に関しての問い合わせがあれば可能な限り返答を行いますが、日本全体の厳密な実態を示した精度が保障されているものではございません。開示や結果の問い合わせを希望される場合には、説明書末尾の問い合わせ先までご連絡ください。（（株）マクロミルのモニタ My ページにあるお問合せフォームからお問い合わせください）

お問合せフォームから問い合わせていただきますと、（株）マクロミルから、①研究代表者が連絡を受け、②研究代表者からマクロミルに回答・情報提供する内容を伝え、③マクロミルより問い合わせ対象者へ回答、以上の流れで対応となります。

なお本文書は、下記のホームページにて閲覧することが可能です。

https://www.sip3-housetsu-a2.com/documentation

10.研究成果の公表について

ご協力により得られたデータは、個人が特定できないようにした上で分析を行い、学会発表や学術論文、研究結果の説明会（シンポジウム等）により公表することを予定しています。
なお、研究に参加された方個人のアンケート結果については、調査業務委託先：マクロミル　プライバシーポリシー
https://www.macromill.com/privacy.html　（6. 開示等に応じられない場合について）に基づき、開示を致しません。

11.個人情報等の取扱、試料・情報の保管及び破棄の方法について

・識別番号と個人情報の対応表（電子ファイルを含む）について、データ収集委託業者（1：LGBT総合研究所、2：株式会社マクロミル）内の施錠できるロッカーで保存致します。

・他機関への情報提供と記録
1：本研究は、皆さまがモニタ登録されている機関（株）マクロミルの協力を得て調査を実施するため、皆さまがモニタ登録された際に（株）マクロミルと皆さまの間で合意を得ているモニタ規約第10条に記載に基づいて、個人情報と切り離された状態で研究代表者および共同研究者が所属する機関にデータ提供が行われます。
本研究の目的に追加でその他の目的にデータを使用する場合（二次利用と言います）のデータの取扱いについては、皆さまがこの文書に辿り着く前に御覧になられていた研究説明と同意の画面にて、調査業務を委託した（株）マクロミルにお願いをし、以下の通り記載させていただいております。

「上記の活用の範囲内において、当社に調査業務を委託した研究機関(以下、調査委託元）［研究代表機関：立命館大学 スポーツ健康科学部教授 清家理および共同研究機関として機関の研究倫理審査の許可を得た機関］およびその他目的においても情報提供を行います。」以上を確認の上、二次利用を含めて、研究参加に対する同意、不同意をご検討ください。
なお、共同研究者が所属する機関に個人情報と切り離された状態のデータ（すぐに解析ができるようにきれいに整えられたデータベース：データクリーニング済のデータベース）を提供する場合は、『試料・情報提供票』を作成し、提供先や提供内容を詳細に記載し、データとしてPDF化し、パスワードをかけてHDD保存して、提供致します。

2：本研究の研究計画書に情報の提供元、提供先及び提供する情報を記載致しますが、この研究計画書をもって、提供記録とさせていただきます。提供記録が記載された研究計画書は、立命館大学スポーツ健康科学部インテグレーションコア615号室内の施錠可能なロッカーにおいて、研究期間終了後10年間保管した後、シュレッダーにかけて廃棄致します。

3：本研究において、データの移動が生じます。
①個人情報から切り離されたデータ（すぐに解析ができるようにきれいに整えられたデータベース：データクリーニング済のデータベース）のみ、LGBT総合研究所（社長　森永貴彦）を経

て、統計解析を実施するために、立命館大学スポーツ健康科学部インテグレーションコア 615 号室または BKC テクノコンプレックス２階実験室７（管理責任者：研究責任者　清家理）へ CD-R あるいは USB を用いてパスワードをかけて提供されますが、個人が特定されることはありません。受領したデータは、アクセス制限をかけたサーバー内で適切に保存されます。また、解析サポートや結果の吟味のために、同一データベースが共同研究機関に提供されます。『試料・情報提供票』を作成し、提供先や提供内容を詳細に記載し、データとして PDF 化し、パスワードをかけて HDD 保存して、提供致します。

受領したデータベースは、ハードディスクに入れて立命館大学スポーツ健康科学部インテグレーションコア 615 号室または BKC テクノコンプレックス２階実験室７（管理責任者：研究責任者清家理）、京都大学経営管理教育部（管理責任者：共同研究者　蓮行）の研究室内の施錠可能なロッカーにて保存します。

②保存期間、保存期間後の対応は、立命館大学と同様の対応を講じるものとします。

４：本研究で得られた全てのデータは研究期間終了後 10 年間保管した後、シュレッダーなど復元できない形で破棄します。また個人情報から切り離されたデータは、専用のソフトウェアを用いて、復元できない形で破棄します。

５：個人情報から切り離されたデータについては、将来的に公開データ(例：論文投稿時に提供を求められるような被験者属性や測定項目が入力されたデータベース)となる可能性があるため、研究期間終了後も破棄されない可能性があります。

６：本研究で得られた情報のうち、個人情報から切り離された情報について、本研究の目的以外の学術研究に用いられる可能性または他の研究機関に提供する可能性があるため、１回目のアンケート調査参加時の同意画面にて、「上記の活用の範囲内において、当社に調査業務を委託した研究機関(以下、調査委託元）［研究代表機関：立命館大学 スポーツ健康科学部教授 清家理および共同研究機関として機関の研究倫理審査の許可を得た機関］およびその他目的においても情報提供を行います。」の文言を記載し、データの二次利用を含めた同意取得を実施致します。（P6 の前項１をご参照ください）

７：すべてのアンケートに回答し、完了された方でデータを使用されたくない場合（いわゆる同意撤回）は、希望される方が、（株）マクロミルモニタ My ページにあるお問い合わせフォームから問い合わせ（データ使用拒否の希望等）を実施していただき、（株）マクロミルから研究代表者へのデータ納品前であれば削除、納品後であれば削除対応なしと同意撤回を希望する対象者に（株）マクロミルから連絡をしていただく手立てを講じます。

12.研究にかかる資金源

本研究は、内閣府：戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）により実施致します。また、研究対象者の方に負担いただく費用はございません。

13.利益相反について

本研究は、内閣府：戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）により実施致します。本研究の遂行に影響を及ぼすような利益相反（利害関係の対立）及び個人の収益は一切ございません。

14.知的財産権の帰属について

本研究を遂行する過程で、特許などの知的財産権が生じる可能性があります。この場合、知的財産権は大学に属し、研究対象者の皆様に帰属することはございません。

15.本研究で得られた情報を将来の研究に用いる可能性について

①本研究で取得したデータは他の医学研究を行う上でも重要なデータとなる可能性があります。そのため、将来この研究の当初の目的とは違う目的で解析する場合や、他の研究者と情報を共有する仕組みを作って、LGBTQ を取り巻く生きづらさの研究の発展と、効果的な対策の立案に資する研究のために活用させていただくことがあります。

②本研究の目的以外の学術研究に用いられる可能性または他の研究機関に提供する可能性があるため、1 回目のアンケート調査参加時の同意画面にて、「上記の活用の範囲内において、当社に調査業務を委託した研究機関（以下、調査委託元）［研究代表機関：立命館大学 スポーツ健康科学部教授 清家理および共同研究機関として機関の研究倫理審査の許可を得た機関］およびその他目的においても情報提供を行います。」の文言を記載し、データの二次利用を含めた同意取得を実施致します。（P6 の第１項もご参照ください）

これらについて質問がある場合は、研究内容に関する質問も含め、下記の問い合わせ先までご連絡ください。（（株）マクロミルのモニタ My ページにあるお問合せフォームからお問い合わせください　https://monitor.macromill.com/airs/exec/inquiryInputAction.do）

お問合せフォームから問い合わせていただきますと、（株）マクロミルから、①研究代表者が連絡を受け、②研究代表者からマクロミルに回答・情報提供する内容を伝え、③マクロミルより問い合わせ対象者へ回答、以上の流れで対応となります。

16.研究に対する問い合わせ・苦情等の連絡先

御不明な点、ご質問、お問い合わせ等ございましたら、下記までご連絡下さい。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2024 年 11 月 20 日

（株）マクロミル　マクロミルモニタサポート窓口　お問い合わせ
https://monitor.macromill.com/airs/exec/inquiryInputAction.do